

## オプテックス (コード 6914・東証 1 部)

業績推移(連結)

(予想数値は会社発表分。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
07.12	22,167	+9.2	4,075	+3.9	140.4	40.0	28.5	18.4
08.12	20,916	-5.6	2,489	-38.9	59.7	40.0	66.7	11.9
09.12(予)	19,200	-8.2	1,800	-27.7	60.4	40.0	66.2	9.4

### 赤外線センサの世界的トップメーカー

**特色**...防犯用、産業用センサの專業大手で、赤外線センサの世界的トップメーカー。自動ドアセンサでは国内 50%、世界でも 30%のシェア。

### 08 年 12 月期は減収減益に

**防犯関連事業が軟調**...08 年 12 月期は、景気後退による需要減や新製品の投入遅延、為替の影響(円高)などを受け、売上高が 07 年 12 月期比 5.6%減となった。事業別売上は、防犯関連事業：97 億 5,600 万円(07 年 12 月期比 12.4%減)、自動ドア関連事業：52 億 9,800 万円(同 2.3%増)、産業機器関連事業：42 億 1,500 万円(同 1.5%増)。防犯関連事業では、国内売上が販路の集中と選択によって前年度実績を 20%下回ったほか、海外においても欧米、アジア、その他地域ともに建築需要の低迷や為替の影響(ドルやポンドに対して円高)などによって売上減に。自動ドア関連事業については、国内において 07 年の改正建築基準法施行が沈静化すると期待された下半期以降にもさらなる市況悪化の影響を受けたものの、客数情報システムが伸長。海外では、関連会社であったセキユマティック社(現「オプテックス テクノロジーズ B.V. オランダ」)の子会社化や米国における技術サポート体制の強化を図ったものの市場低迷の影響を受けて軟調に。産業機器関連事業については、海外市場は設備投資抑制の影響が第 4 四半期に出始めたものの、国内市場において子会社オプテックス・エフエーの画像センサが物流・自動車業界向けに堅調に推移した。また、売上高減少や、新製品開発に向けた積極的な開発投資を実施したことにより、営業利益(26 億 6,100 万円)は同 30.9%減、経常利益も同 38.9%減となった。

### 09 年 12 月期も厳しい業績見通し

**今期も減収減益へ**...09 年 12 月期については、アプリケーションに応じた屋外センサの発売など防犯関連事業を軸とした新製品の投入や、新規販路の開拓などを図るものの、世界的な経済情勢の悪化を背景に、売上高は 08 年 12 月期比 8.2%減となりそう。事業別売上予想は、防犯関連事業：93 億 7,000 万円(08 年 12 月期比 4.0%減)、自動ドア関連事業：42 億 2,000 万円(同 20.3%減)、産業機器関連事業：41 億 5,000 万円(同 1.5%減)など。自動ドア関連事業の中で前期に好調だった客数情報システムについても小売業界低迷の影響を受けて売上減の見通し。また、円高による売上原価率上昇が見込まれ、営業利益(17 億円)は同 36.1%減、経常利益も同 27.7%減の見通し。なお、会社側の業績予想で前提とされる為替レートは、1 ドル = 90 円、1 ユーロ = 115 円。年間配当は 08 年 12 月期と同じく 40 円の予定。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。